

『イイナリ先生 〜人の水泳部員の白濁性処理セックス〜』

制作：AreaS 企画・シナリオ：縞屋紺

【登場人物】

ミキヤラ01 犬飼祐二（いぬかいゆうじ） 3年 CV. 姫咲遙
水泳部の部長であなたの幼馴染。（あなたは祐二の兄と付き合っている）
リーダーシップがあり、水泳部では『頼れる兄貴分』といったタイプだが
実力はトップではないため、反発するものもいる。

ミキヤラ02 鳳孝宏（おおとりたかひろ） 3年 CV.三橋渡
水泳部の副部長で犬飼の親友。
優しく穏やかな性格だが、時折利己的な一面を見せることも。

ミキヤラ03 卯月健（うづきたける） 2年 CV.二回戦中
ムードメーカーで水泳部の2年エース。
強引な性格で女にはモテるタイプ。水泳部のマネージャーとも同時並行で身体の関係を持っていた。
ヒロインのことが気になっていて、水泳部での輪姦を先導して行く。
1

ミキヤラ04 我孫子弘道（あびこひろみち） 24歳 CV. 愛音録
水泳部OBで外部コーチ。生徒には厳しく少々横柄な態度で接する。

ミキヤラ05 辰川颯太（たつかわそうた） 3年 CV. ysd.
ゆるつとしたお調子者。女の子が好き。巨乳好き。
難しいことを考えるのは苦手で、その場が楽しければOK。飽きっぽく大食い。

ミキヤラ06 馬場光一（ばばこういち） 3年 CV. 新堂大輔
辰川の親友でノリのいい男子高生。辰川よりは地に足がついている。
女の子が好き。背は小さいが巨根。

ミキヤラ07 牛島正哉（うしじままさはや） 1年 CV. 愛音録
素直な性格で上級生にも礼儀正しい。
先輩たちにいじられがち。女性経験は浅く、早漏。

ミキヤラ08 口岡新（みおかあらた） 1年 CV. 乃木悠星
1年エース。クールで上級生に対しても殷勤無礼。
バカ騒ぎする部員たちを冷めた目で見ている。クールを装っているが、芯は熱い。

※キャラ6 猪口大和（いのくちやまと） 2年 CV.三橋渡
面倒見が良い反面、後輩に対して口うるさくなりがち。
内心チャラチャラした卯月のことを疎ましく思っている。

※キャラ7 猿渡佑弦（さわたりゆうづる） 1年 CV. 姫咲遙
親が関西人なので軽い関西訛りがある。
話し好き、調子の良い性格。難しいことを考えるのは苦手。

クラスメイトの巳岡とは正反対の性格だが、なにかとちょっかいを掛けずにはいられない。

※キャラ8 虎松大地（とらまつだいち） 2年 CV. 二回戦中
無愛想で力持ち。女体には興味があるが、正直女性には面倒だと思っている。
波風立てることも苦手なので先輩の言うことには逆らわない。

※キャラ9 有未弥太郎（ありすえやたろう） 1年 CV. 新堂大輔
水泳歴は長く実力もあるが、中性的な顔立ちの上、気が弱くいつもオドオドしがち。
面倒なことを押し付けられる事が多い。

※キャラ10 鯨井岳（くじらいがく） 1年 CV. 姫咲遙
体育会系さわやか少年。セックスもスポーツのひとつ！と考えている。

※キャラ11 狐坂律希（こさかりつき） 2年 CV. 乃木悠星
AV好きで脚フェチ。

※キャラ12 亀山絢斗（かめやまあやと） 2年 CV. ysd.
彼女持ちだが、彼女がやらせてくれないので性欲を持て余しがち。言葉責め好き。

※キャラ13 波戸謙佑（はとけんすけ） 2年 CV.三橋渡
少しナルシスト。美容フェチ。

●1章

//時間：朝 場所：通学路

//通勤中、犬飼と出会うヒロイン

犬飼「おねえ、おはよう」

//ヒロイン「あ、おはよう。早いねー」

犬飼「今日はそんなに早くないよ、いつもの朝練の時間。」

——おねえは？ いつもこんなに朝早くないでしょ」

//ヒロイン「あ、うん。文化祭の準備」

犬飼「え、文化祭の準備？ そんなのまだまだ先なのに……。」

教師ってこんな前から準備してんだ？ おねえも大変だね」

//ヒロイン『おねえ』じゃなくて、『先生』！」

犬飼「ハイハイ、学校では『おねえ』じゃなくて『先生』ね（笑）」

//ヒロイン「……文化祭さ、瑛一さんは来るのかな」

犬飼「は？ 兄貴？ ——知らないけど……母校の文化祭くらい顔出すんじゃない？

オレじゃなくって直接兄貴に聞けよ。……付き合ってたんだから」

//ヒロイン「そ、そうだけど……」

犬飼「まあた兄貴に放置されてんの？

昔っから変わらないよなあ、アイツ。いつでも自分のことで手一杯で……。」

遠距離恋愛できるタイプの人間じゃないんだって。

長い付き合いとはいえ、いい加減見切りつけたほうがいいんじゃない？

——アイツ以外にも、男なんていくらでもいるじゃない」

//ヒロイン「そ、そういうこと言わないでよ……。」とそっぽを向く

犬飼「え？ あ……。」「メン、言い過ぎたかも。」

——あっ、オレコンビに寄っていくから」

//ヒロイン「あ、うん。部活頑張って」

犬飼「うん、おねえ……じゃなかった、先生も！ 仕事がんばって」

〓時間経過

〓時間…放課後 場所…校内の廊下

〓放課後、ヒロインが廊下を歩いていると卯月に声をかけられる。

卯月「あ！ セーんせ！」

卯月「なにしてんのー？ 今から帰り？」

〓ヒロイン「まだ色々仕事があるの」

卯月「えー？ そんなの後にして、オレと遊び行こ。」

オレもこれから部活行くところだったんだけどー

先生が遊んでくれるなら、部活サボっちゃうわ」

〓ヒロイン「何言ってるの、行くわけないでしょ。ほら、早く部活行きなさい」

卯月「……チツ。いーじゃん」

〓卯月、ヒロインの手を引いて壁に追い詰める

卯月「ちよっと付き合ってよ。」

もう何回も誘ってるのに、先生全然OKしてくれないよねー？

……ねえ。先生ってカレシとかいんの？

オレそんなの気にしないよー

っていうか、オトコがいても絶対オレの方選んでもらえる自信あるじ？ (笑)

ね、だからさ——」

〓犬飼、廊下の先から卯月を見つけて駆け寄ってくる

犬飼「卯月！ お前また強引に——え、おねえ？」

卯月『おねえ』？ なんスカ『おねえ』って (笑)「

犬飼「……つつ！ ——うるさい、集合時間過ぎてるぞで。」

お前がそんなじゃ後輩たちにも示しがつかないだろ。早く着替えてこい」

卯月「ウゼーなあ……。」

「へーへー。すぐ行きますよー」

〃卯月、廊下を歩いていく

犬飼「ゴメン、ウチの部員が迷惑かけて……ヘンなことされなかった？」

〃ヒロイン「ふふっ、大丈夫だよ。ちよつと話しかけられただけ」

犬飼「そう……良かった。でも、笑い事じゃないって。」

アイツ……2年のエースだけど、オンナ関係は問題ばっかだし……。

——とにかく、アイツには近寄らないように！

〃ヒロイン「うん。ありがとう」

犬飼「……途中まで、一緒に行く？」

〃ヒロインと犬飼、連れ立って歩き出す

〃ヒロイン「部活……大変なんだ？」

犬飼「え？ ああ……部活？」

好きでやってることだから、別に大変とかそんなじゃないって……。

オレは中学から水泳始めたクチだし、

記録残して推薦取るぞってレベルでもないんだけど

部員の中じゃいいセンいけそうなヤツもいてさ。

最後の大会だから余計ピリついてるのかも」

〃ヒロイン「祐二ならできるよ！」

犬飼「軽く言うなってば……」

〃ヒロイン「でも……」

犬飼「なんだよ……。おねえに何がわかるんだよー？」

〃ヒロイン「ー！」

犬飼「あ……いや、大きな声出してゴメン……」

〃ヒロイン「……なにかあった？」

犬飼「……。いや……。ちよつと、その……最近下の奴らが言うこと聞かなくて手え焼いてて。

さっきのヤツとか、やけにオレに突っかかってくるし……。

他のヤツらも、ホント体力有り余せたバカばっか（笑）

／＼ヒロイン「そっか……大変だね、部長さんも」

犬飼「ん……。部長って言ったって、

オレ特別人望があるわけでもないし、実力で黙らせるってガラでもないから

ただ面倒な役を押し付けられただけって感じだよ？

少し厳しく言ったりメニュー増やしただけで反発されるし、

逆に下手に出れば後輩にまで舐められるし……。

引退間際になって、オレもやっと少しアイツらの扱い方がわかってきたって感じ」

／＼ヒロイン「へえ……」

／＼犬飼、部室ドアの前で立ち止まる

犬飼「あ……。とか言ってたら、部室着いちゃった（笑）」

犬飼「ゴメンゴメン……おねえ、職員室行くはずだったんでしょ？」

／＼中から、部員たちが楽しんでいる声が漏れてくる

犬飼「……っ、アイツらまた……！ まだプール行ってなかったのか……」

／＼ヒロイン「……？」

犬飼「また騒いでるみたいだ……ちょっと注意してこなきゃ。

——じゃあね、おねえ」

／＼犬飼、慌てて部室の中に入っていく

—

／＼翌週

／＼場所…水泳部部室前

／＼ヒロイン、ドアをノックすると、卯月が扉を開けて顔を出す

卯月「ちよっと、遅かったじゃん——って、あれ？ 先生？

どーしたの、まさか……オレに会いに来ちゃったとか……！？」

犬飼「ん……？ おね……じゃない、先生！ なんかあった？」

／＼ヒロイン「うん……大会前だって言うから、ちよっと様子を見に来ただけ」

犬飼「え……？ 様子を見に来ただけって、なんだよそれ。

ちよつと、卯月には近づくなくて、オレ言つたよね？」

鳳「先生、誰か生徒に用事があるなら、僕が呼んできましようか。

今、部員みんなプールの方で基礎練やってて。

終わつた順にこっちに来ることになってるんですけど——」

犬飼「鳳！……いいよ。先生もう帰るって」

卯月「部長……なんか先生と仲良いですねー。昨日も『おねえ』とか呼んでたし（笑）」

犬飼「別に……。家が近所つてただだ」

卯月「へえ……幼馴染つてヤツ？

それで大会前の応援に来ちゃつたんだ？（笑）ホント仲いいんですねー。

——でもそれって先生的にはアウトでしょ、部長のことだけ特別扱い？

ちよつと問題なんじゃないですか……？」

//ヒロイン「そんなんじゃない……！ 私はただ、マネージャーの〇〇さんに相談されて——」

鳳「え、マネージャーたちに相談されて？」

//ヒロイン「……」

卯月「あ……なるほど……そういうことかあ。

たしかに、そろそろバテて泣きついてくる頃じゃないかと思ってましたけど……

『あのこと』先生にチクつたんだあ？」

//ヒロイン「えー？ ちよつと……あの子達にそんな大変な仕事押し付けてたのー？」

卯月「ちよ……怒らないでくださいよお！ 大変なコト押し付けてたっていうか……

アレ、詳しいこと聞いてません？？

マネージャーの仕事については……彼女たちも結構楽しんだと思いますけどー？（笑）

——とにかく、そういうことなら立ち話もなんですし……中入って話しましょ、ねっ♪」

犬飼「お、おい！ 卯月——」

卯月「なんスか、部長」

犬飼「部外者を入れるのは……その、マズイだろう？」

そろそろ部員たちも全員集まってくるし……」

卯月「だからですよ。こんな外でウダウダやってるほうがマズイですって。

人が集まって騒ぎになったらどうするんですかー」

鳳「……………。そうだね。とりあえず一回中に入りましょっか」

／＼鳳、ヒロインを部室内に招き入れてドアを閉めて鍵をかける

／＼ヒロイン「鍵？」

鳳「ああ、念の為ですよ。……みんな大雑把だから、鍵の管理は僕の担当なんです」

卯月「マネージャーたち、今買い出し行ってるんですよー。

先生、こっち座って待っててくださいよ」

／＼ヒロイン、部屋の奥へ通される。わらわらと部員たちが寄ってくる

辰川「あつれー？ どしたの先生」

馬場「あ、もしかして……今日の特訓の手伝いに来てくれたとか？」

辰川「へっ？ う、うううウソー？ 先生があー？」

／＼ヒロイン「特訓……？」

犬飼「……なんで……よりによって今……」

馬場「なーに溜息ついてんだよ。超アタリじゃん、超ラッキーじゃんー！」

犬飼「はあ……？ ラッキー？」

馬場「オレ、先生のこと超タイプ。正直スリネタにしたこともあるっていうかー」

辰川「ハイハイー！ オレも、オレも……！」

馬場「だよなー。オンナ教師って、なんかエロいじゃんっ？」

犬飼「っ、馬場！ いい加減しろ、お前！」

／＼ヒロイン「な、何言ってるの……ー？」

鳳「……その顔、やっぱりマネージャー達からなんにも聞いてないみたいですね」

卯月「まったく困った」たちだなあ……。

先生に『大事なマネージャーの仕事』押し付けて帰っちゃうなんてさあ」

鳳「人選だけは褒めてあげるけどね……。他の先生だったら、大変なことになってたかも」

犬飼「おい、お前まで……！」

鳳「(ため息をついて) 学年主任とか生活指導の先生に相談されてたら、って話。

こんなことバレて大事になったら……大会どころの話じゃなくなっちゃうでしょ?」

犬飼「だからって……」

鳳「……どうする? 犬飼は先生に口止めできるの?」

うかうかしていると、他のヤツも基礎練終えて来ちゃうんじゃない?

『金曜日』をなにより楽しみに敵しい練習に耐えてるようなヤツらだよ……

馬場や辰川みたいに『マネージャーがダメなら先生に……』なんて暴走しかねない。

そうになったら、僕や犬飼でも止められるかどうか……」

卯月「部の外で事件とか起こされるよりは全然マシですつてえ!

それに……(ヒロインを見て) 先生ならイケそうじゃないですか、何人でも」

辰川「おっぱい大きいしい!」

馬場「けっこー可愛いしい!」

//ヒロイン「!?」

犬飼「つ……! なあ、本当にこんなことやめよう。

納得してやってた彼女たちと、何も知らずに来た先生とじゃ、全然意味が違っただろ?

お前ら、自分たちがなにしようとしてるのかわかってるのか?」

卯月「あははっ! 部長、マジメ……。でも今さらそういう湿っぽいのはヤメましょうってば!

(ヒロインに向かって) 先生。マネージャーたちが『キツイ』って言ってた仕事って、

実は『部員たちの性処理』だったんですよねー」

//ヒロイン「え……せ、性処理、って……!?」

卯月「驚いちゃいました?(笑) でも別に無理やりじゃないですよ?」

最初は彼女たちがどうしてもって言うんで『オレだけ』やってもらってたんですけど

そんなのズルいって皆が言い出しちゃって、それで仕方なく」

辰川「だってお前、あんなふうに部室でやりまくられたらたまらないって……!」

馬場「そーそー。こっちだって溜まってんだから、気が散るだろ」

//ヒロイン「バカなことは辞めなさい! 人をなんだと思ってるの……!」

卯月「ハハッ、そんな怖い顔しないでくださいって。

皆がちゃんと練習に集中できるように、ちょーつと抜いてもらってただけですよー。

週に一回、基礎練が終わった順にマネージャーに性処理してもらう。

——『金曜日の特別メニュー』を決めたのは犬飼部長なんですよ?」

／／ヒロイン「えっ……!?!」

犬飼「くっ……! オレが止めても、お前らがやめないからだろうっ!

誰も賛成なんかしてない! 認めてなんかないっ!」

卯月「えー? でもあの「達ってオレの言うこととは何でも聞かない子ちゃんだから。

マネージャーたちにご奉仕してもらって、

みんなスッキリできて、タイムも良くなって、誰も不満なんかなかったでしょ?」

鳳「少なくとも……今この時までには、けどね」

卯月「今さら中止だって言っても、誰も納得しませんって。

でも、先生が部長と幼馴染ねえ……。

別にいいんですよ? 「」で騒いで人呼んでもらっても。

……でも、どうなっちゃうんですかねー。アンタは助かるかもしれないけど……。

伝統ある水泳部は廃部、部長や強化選手のオレたちは主犯として退学かなー?

いやーそれは困るな(笑)」

犬飼「……!?! 卯月……!?! いいかげんにしろっ!?!」

／／犬飼、卯月に掴みかかろうとするが、ひらりと避けられて壁際に押され倒れてしまう

犬飼「うぐっ……!?!」

卯月「おーっとお……!?! やめてくださいよ〜

大会前のこの時期に怪我でもしたらどうするんですか、そんなお互い困るでしょー?

それでも暴れるつもりなら、「っしてー」

／／卯月、犬飼を犬飼の着ていたＴシャツと落ちていたタオルで拘束してしまう

犬飼「お、おい……!?!? やめろ、この、くそっ……!?!?! 離せっ……!?!」

卯月「っ、と……!?! ……フン、フン♪ 着てる服で拘束するのって、

手間がなくていいですよねー。

あ、いつもは女の子にやってるから、男相手に試すのは初めてですけど（笑）

鳳「卯月！ 犬飼になにしてるんだ！」

馬場「そつだよ、いくらなんでもそれはやりすぎだつて……」

卯月「えー？ でも部長が先に手を出してきたんですよ？ 部内での暴力行為は厳禁！ って……

あそこにも張り紙してあるじゃないですかあ」

犬飼「くっ……！」

卯月「決まり決まりー！」

ねえ部長、しゃーなしですよー。今日は先生のお世話になりましたよつ。

ね、仲良くしましょー先生♪」

馬場「ゴクッ……。マジ？ マジで先生がオレたちと……？」

辰川「やった♪ 先生にヌいてもらえるとか、今日はツイてる〜」

卯月「心配しないでもー優しくしますから♪ だから抵抗しようなんて思わないでくださいね？」

鳳「……。先生、ごめんなさい……。僕らには止められなくて……」。

今日だけ……今日だけ、お願いします……」。

●2章

卯月「んじゃ早速。基礎練クリア、一番目のオレから♪」

犬飼「卯月っ、やめろ……！ ふざけんなっ、お前……おねえと巻き込むんじゃねえっ……！」

卯月「おー」ワ。心配しなくてもさっさと済ませますってー。

っていうか……ウルサイんで口も塞いじゃっていいですか？」

／卯月、犬飼に近寄って、タオルで猿ぐつわをしてしまう

犬飼「んぐっ、ふうっ！ んんんっ……ぐ、ふううう！ ん……！ む……！」

卯月「アハ……先生、そんな心配そうな顔しないでくださいよー。

ちよつとタオル噛ませただけです。

先生がおとなしく協力してくれば、

部長もこれ以上ヒドイことにはなりませんから（笑）」

／ヒロイン「いや……やめて……」

卯月「だからーそれは先生の協力次第でしょ？

オレたちはいつもどおりの『金曜日』を愉しみたいだけです……♪

——んじゃ早速、そのスーツ脱いじゃいましょっか」

／ヒロイン、慌てて逃げようとするが、卯月に腕を掴まれてしまう

卯月「暴れるなっ……言いましたよねっ？ ほら、こっち来いって……！」

／ヒロイン、押し倒されて組み敷かれる「いやあっ！」

犬飼「んーっっ……！」

—

卯月「ハハ、抵抗するんだ？ でも無駄……っ……オレを押し返せるわけないでしょっ？

ほら、先輩……なに見てんスカあ……！ やるならちよつとは協力してくださいよー

そっち、手え押さえて……んっ……」

馬場「あ、ああ……！ オッケー♪」

辰川「こっちも？ ……っ……先生、おとなしくしてよ……！

オレたち、気持ちよくなりたいだけだから……先生だってケガしたくないでしょっ？」

／＼ヒロイン、暴れる

卯月「さーて……どっからきますー？」

ストッキング破くか……上脱がせておっぱいいくか……？」

辰川「も、もちろんおっぱいでしょっ！」

犬飼「ふうう、んんっ……！！」

卯月「アハ……いきますよー。まだ部長も見たことない先生のおっぱい♪

オレたちで先に拝ませてもらいまーす(笑) んっ……っ……！！」

／＼卯月、荒々しくヒロインのニットを捲くってブラを露出する

馬場「うっわ……！ マジ……こんなブラ付けてたんだ？ 先生……」

辰川「脱いだらやっぱおっぱいおつきいじゃん。やーらかそー♪」

犬飼「んっ……ぐ……」

卯月「エロい下着つけてんねー？ やっぱ先生ってインランでしょ。

ニットの下にこんなエロいおっぱい隠して……

本当はこの状況楽しんじゃってんじゃないの？

いいよヤがるフリなんかしないでー。今日はお互いたっぷり楽しもうよ、ねえ？(笑)」

／＼ヒロイン「そんなわけないでしょう……！ やめて……もう……！！」

卯月「あれ……認めないんだ？ 否定したってすべわかつちゃうんだけどなー。

んじゃ、確かめてみます？ ——辰川先輩、馬場先輩。

先生のおっぱい触っちゃっていいですよ。

両サイドから手突っ込んでモシモシ♪っつて

辰川「え、いーのかよー？」

／＼ヒロイン「っ……！！……！ やだ、やめて……」

卯月「いーですよー。でも、ちゃんと先生が気持ちよくなるように触ってくださいねー。

先生、意地でも感じません！ って顔してるけど(笑)」

／＼辰川&馬場、ヒロインの胸に手を伸ばして胸を触る

馬場「……っ、うわ……！！ コレが先生の……っっ」

辰川「ハハッ……やっぱマネージャーとか、同級生のとかのとは違うって感じて……♪

おっぱいやっわらかあ……」

馬場「っ……先生っ……！　ブラ、邪魔……」

卯月「直に触ってもらいましょつかあ、先生♪」

両サイドから先輩たちに乳首グリグリ……ってされたいでしょー？」

辰川「ゴクツ……！　だ、だよな……先生だって、直接触ったほうが……！」

／＼辰川、ブラジャーを上にはズリあげる

馬場「お、おい……強引すぎだつて、ちゃんとホック外せよー」

辰川「そういうの苦手だし！　早く見たいじゃん、先生の乳首……！」

馬場「まーこれはこれで、ＡＶみたいでエロいけどさ……」

卯月「アハ……期待通りキレイな色ですねー。

あーあ……ホントはオレがひとりで見たかったんだけど。

先生が素直にオレのモノになってれば、こんなことにはならなかったかもねえ？（笑）」

／＼ヒロイン、乳首を触られてビクンと反応する

辰川「……っ、なに……痛かった？」

馬場「っって感じじゃないだろ、コレは……。先生、乳首感じてんだ？」

／＼ヒロイン「ち、違う……！」

辰川「卯月の言う通り、隠さなくてもいいじゃん？

乳首触られたら感じちゃうよね、先生……オレだってちょっと声出ちゃうし（笑）」

馬場「バカ、お前の乳首の感度はどーでもいーんだって（呆れ）」

気持ちいいなら……もつと触ってあげる……！」

卯月「クッククク……先生やっぱりおっぱい感じちゃってますね。

そしたら、（脚を開かせる）んっ……こっちは？

——ハハ、油断してたでしょっ？

脚……ちゃんと力入れてないからカンタンに開いちゃった♪

いーですよね、コレ……ストッキングの感触たまんない。

コレは履かせたままです……邪魔なところだけ穴開けちゃいましょつかー♪」

／＼卯月、ヒロインのストッキングの股部分を破き穴をあける

辰川「ハハ……すっげー！

こーいうのエロ動画でしか見たことねーし！」

卯月「んで……パンツの上からスリスリ〜って」

〓ヒロイン「やつ………！」

卯月「イヤ？ ヤじゃないでしょー？

ほら……指で擦つてるとーパンツの上からでもわかりますよ？

クリが勃起して……ぶっくりしてるの。ね、〓〓……っ………！

クリですよ？ 先生のクリトリスですよ？（笑）」

〓ヒロイン、執拗に責められて反応してしまう

卯月「あーあ……もう息荒くしちゃって。

指先で撫でてるだけだから痛くはないハズですけど……

えー？ もしかしてえ、生徒に触られて感じちゃってます？（笑）

あ、ほらー……下の方からなんか滲み出てきましたよー」

馬場「ゴクッ……え、マジ……？」

卯月「部長も見てくださいよー！ おっぱいとクリ触られて、感じちゃってる先生。

フツッ、こーゆー時の顔は、JKと変わらないですね。メ・ス・の・か・お♪」

犬飼「んっ……ん、ん、むう……っ……！」

鳳「卯月、いいかげんにしろー！ 犬飼を煽る必要はないだろ………！」

卯月「あつれー居たんですか、副部長さん。すっかり空気でしたよね、空気（笑）

——オレえ、前からアンタたちが気に入らなかつたんですよー。

実力もないくせに、部長だ副部長だつて威張り散らして……。

まだ辰川先輩や馬場先輩のほうが実力上じゃないですか？

……オレのほうが断然水泳歴長いし、実績だつてある。

アンタらにあってしろこーしろ指図されるの、正直納得いかないんですよー（笑）」

犬飼「んんっ………！」

卯月「わかってますー？

アンタが弱くて、後輩にも舐められるような情けないヤツだから

こんなことになっちゃったんですよ。

幼馴染のオネーサン盗られてくやしーですかあ?」

鳳「卯月、お前やめろってば……!」

卯月「まーもともと先生のことはかわいーと思って狙ってたし、

マネージャーちゃんたちもホントいいタイミングで動いてくれたっていつか……。

とにかく、アンタはそこから先生の感じる顔でも

見てて下さいって(笑)」

卯月「……っ……ああ……パンツのシミ、どんどん広がってく……。

オレの指、そんなにイイわけ?

グリグリってされるより、ココはソフトに何度も擦られるのがいいでしょ?

ほら……っ……ん? ……っ……はあ……!」

辰川「え……! オレらがおっぱい触ってるからだって。

乳首……さつきよりもずつと硬くなってるじ。ツンツンして……マジ可愛い!」

馬場「だよな。ピクピク震えて、声ガマンしてても感じてんのバレバレ(笑)」

辰川「なあ、オレもうヤバいって……。

(急いでパンツを下げて)は……っ……チンコ触ってよ、先生っ」

卯月「ちよ、先輩! 割って入らないでくださいよ! 一番はオレ!」

辰川「いーだろ、ちよっと触ってもらうくらい!」

馬場「いやお前、出す気マンマンだろ、絶対! オレもっ……!」

卯月「チッ……。そっスね……。じゃー、ふたりのこと手でシてあげてくださいよ、先生」

//辰川&馬場スポンを下げて陰茎を取り出す

馬場「んっ……はあ……。そこ寝て? 先生」

辰川「両手でチンコ持ってシゴいてくればいいから。カンタンでしょ? 先生」

卯月「ハハッ、目えそらしたってムダですって!」

//ヒロイン「やめてっ……!」

卯月「んー? 先生、いい加減抵抗するのやめてくださいよ……

ほーら、両手でちゃんと持って？

手コキでみんなの又いてくれれば、それで終わりですから。ねっ？」

//ヒロイン「ほ、ほんとう……？」

卯月「ホントホント。スッキリしたら、先生も部長も開放しますから」

辰川「ねー、だから早くっ」

//ヒロイン、横になり恐る恐る陰差に手を伸ばす

辰川「んっ……！」

馬場「ふっ……！　そ、そんなソロ……っつと触られたら、くすぐりたい……！

ちゃんと強く握ってくださいよ……じゃないといつまでもイけないかも」

卯月「そうですよー、いくまでずーっとシ」シ」続けることになるんで、

マジメにお願いしまーす（笑）」

//ヒロイン、意を決して手コキし始める

辰川「んっ……はあ……。もっと強くていいよー先生……っ……。

は……んっ……はあ……そうそう、それっくらい」。

馬場「……っ……つか、やっぱカラカラだとちょっと……。

卯月、いつも使ってるローションは？」

辰川「あーあれこの間で切れたんじゃない？　みんな誰かが補充すると思ってんだよねあ……」

卯月「んじゃ悪いんですけど……

先生、ちよっとツバでも垂らしてくれませんか？」

//ヒロイン「えっ……」

卯月「わかるでしょ？　乾いたまま手コキ続けられてもイけなそっなんだー

ちよっと滑りよくしたいんすよ。だからツバ。

チンポにベーってツバ垂らしてくださいって」

馬場「おーいい考え♪　ツバください、ツバー♪」

//ヒロイン「……………」

卯月「モタモタしないでくださいよー。ツバ垂らすんじゃないくて、

そのままチンポ舐めてベタベタにしてくれるんでもいいですけどっ」

／＼ヒロイン、遠慮がちにツバを垂らす

馬場「——う、ああ……そう……先から根本まで塗り拡げるカンジで……んっ……ふう……」

辰川「んっ……はあ……いーカンジ♪ チンポヌルヌルになってエッロ……」

馬場「はあ……はあ……っ……ん……ふう……っ……」

辰川「んっ、ん……はあ……はあ……っ……ああ……」。

ぐっちゅぐっちゅ音させて……っ……はあ……ヤバ（笑）

もっとなっぽいっばい擦ってくんない……？　っ……ああ……！　そうそっ、そこ……！

はあ……はあ……っ……っっ、亀頭、弱いんだよねーオレ……すぐ我慢汁出てくる……」

卯月「ハハッ、ツバいらなかったじゃないですか辰川先輩。

先生、いー格好……両手でチンポスリスリしちゃって」

馬場「先生……はあ……マジエロすぎるって……」

辰川「はあ……はあ……ん……ああ……」。

いつものマネージャーたちの手コキより、慣れてないカンジが……んっ……ああ……

先生にされてるって考えると……はあ、ガマンすんの大変……っ……」

卯月「イくのガマンしてるんスか？（呆れ）」

辰川「はあ……はあ……そりゃそうだろう？　馬場より早くイくのとかヤダし……

それにギリギリまでガマンしたほうが沢山出て気持ちいいし？」

卯月「そんなことイイから早くイってくださいよー。後ろの先輩たちもうるさいんですから（笑）

ね……先生、やっぱあんまり経験ナイカンジなんですか？　まさか処女とか」

／＼ヒロイン「……彼氏、いるから」

卯月「えー！　カレシいの？　なのにオレらにこんなんされちゃってるんだ？

アハッ……やば……そんなん聞いたら、オレも我慢汁出ちゃいますってー（笑）」

辰川「なんだそれ……ヘンタイかよ……（呆れ）」

卯月「シコられて興奮してる先輩に言われたくないんスけどー？

ヒトのモノってだけでエロさ3割増しでしょっ？」

馬場「あー……イイ……はあ……はあ……先生、もっとなっ……はあ……」

辰川「んだよ、馬場、イきそっなのー？」

馬場「うっせ、黙れって……んっ……ああ、先生……もうちょっと……！」

ツバ足してっ、んっ……はあ、はあ……それ、イイ……んんんっ

イク、先生、出る……っ……はあ、はあ……っ、んっ、くうっ……！！」

〓馬場、射精

馬場「んっ……は……はあ……。ヤッバ……髪がかっちゃった？」

辰川「めっちゃ飛んでんじゃん！ 精子くせー（笑）」

卯月「——ん、手え疲れちゃいました？ ちょっと休憩します？」

——つてえ言いたいところですけど、後がつつかえてるんですよえ」

馬場「辰川もさっさとイけって」

辰川「え、オレのせい？」

卯月「どのみちこのペースじゃ、何人も又くのは無理ですってー」

うーん、手が無理なら……仕方ないですよー」

辰川「ん？ あ！ ああ、そうだなー。仕方ないなー」

卯月「先生。処女じゃないならいいですよね？」

手「キが下手なら、マン」で処理してもらっても……♪」

〓3人の会話を聞いて、犬飼が騒ぐ

犬飼「んんんっ！ んむっ、んんー……！」

卯月「クッククック！ そんな慌てなくてもいいじゃないですかー。

マネージャーちゃんたちだって時々マンコ使わせてくれてたしー

先生もそのほうがすぐ済んでラクかもしれないじゃないですかー？」

辰川「そーそー。だいたい、オレと卯月のコレどーすんの。

せつかく1番2番で基礎練終わらせたのに勃起したまま帰れとか、

それむしろ罰ゲームじゃん？」

卯月「アハッ、そーですよー。あーあ残念、オレも手「キ」でイきたかったですけどー。

やっぱ慣れてないと満足にマネージャーの仕事もできないもんなんですねー」

//ヒロイン「……………」

卯月「ハハ、そんな顔しないでくださいって……。」

大丈夫ですよー。さすがに突っ込ませてくれたらイケると思いますしい……♪」

犬飼「んんっ！ んぐうー！」

卯月「んじゃサクツとイつときですか……♪ 先輩たちはもうちょっと待っててくださいねー」

辰川「はあっ！？ ふっざけんなよ！

なんでお前からなんだよ、卯月ー！！（卯月の背中をバシツと叩く）」

卯月「でっ！？ ちょっとお……暴力は絶対禁止って決まりでしょ、暴力はあ……ー！！」

辰川「お前はム力つくから別ー！！」

馬場「そーだぞ、卯月。お前2年のくせに調子乗りすぎ。

エースだかなんだか知らねーけど、まずは先輩からだろうが」

卯月「なっ！？ オレが一番なんですから、当然の権利でしょっ！？ まだイけてないんだしー！」

馬場「あんだけ楽しんだんだからいーだろ。順番だ、順番」

卯月「イつてないのにカウントします！？ 普通ー！？」

辰川「やつぱここは平等にジャンケンじゃん？

えーとオレと卯月と……馬場は一回イったからオワリなー？」

馬場「なんでだよ！ オレだってまだまだイケるし混ぜろって！」

辰川「ハイハイ。——あ、せっかくだし犬飼と鳳もやつとく？

先生とやれる機会なんてなかなかないし〜」

犬飼「んぐっ！ んむむむっー！！」

卯月「（笑）部長はいいえっでーす。副部长はどうしますーっ〜」

鳳「僕もいいよ……。ドアは見張ってるから、オッパと終わらせて」

卯月「ハイハイ。じゃ、他の奴らが来る前にさっさと決めましょー」

//ドアの外から、ドアノブをひねる音

//ドアの外から会話

巳岡「あれ、鍵かかってるわ。え、ってことは……もうやりはじめてるってことや〜」

牛島「ゲエ……まーた先輩達のあとかよー。たまには一番にやりてー！」

／＼鳳がドアを開けて2人を招き入れる

辰川「つとお……！　なんだよ、お前らもう終わったのー？

　　ちよーど今からイイトコ口だったのに」

牛島「え！　今から？　やったあ、いータイミング♪　——つて、え？　先生っ？」

馬場「そ。今日の特別ゲストー！　お前ら先生に相手してもらえるとが、マジっいてるじゃん」

牛島「くくく！　マジっすかあ！

　　今日こそは絶対最初から参加するぞと思つてて！　な、巳岡！

　　あーもー、オレ朝から興奮してもうバッキバキ！

巳岡「キモ……（呆れ）」

／＼ヒロイン「えっ………！？」

卯月「あは……先生、顔色変えないでくださいよ〜。

　　さ、とりあえずコレ以上増えないうちに早くジャンケンしましょー」

辰川「よっしゃー！」

牛島「うわびつくりしたっ」

辰川「絶対勝つー！　一番コイ！　一番コイ！」

馬場「オレは2番か3番狙い」

巳岡「順番？　順番決めっスか？」

卯月「いきますよー。最初はグー！　ジャンケン、ポイツ！

　　あいこでしょっ！　……しよっ！　……しよっ！　………」

／＼並んで離れた場所からジャンケンを見ながら

鳳「静かにしろって言つてんのに……」

犬飼「んんっ、んん……」

鳳「オレだつて先生を巻き込みたくなかないけど……

　　わかるだろ、オレじゃ止められない。お前みたいに殴られて縛られて終わりだつて。

　　だったら、ひとり自由でいられたほうがいいだろ」

犬飼「むう……」

鳳「……仕方ないじゃない？ 仕方ないんだよ」

●3章

//ジャンケンの勝敗がつき……

卯月「じゃっ！ やっぱオレがナンバーワンー！」

巳岡「……くっそ3番か」

牛島「んじゃ、卯月先輩、馬場先輩、巳岡……オレ、辰川先輩の順ですねー。

くくく結局先輩達のあとだしっ……！！」

卯月「ははは、まーできるだけ早く終わらせてやるから、お前らはソッチで待ってろって」

//ヒロインの前に歩み出る卯月

卯月「1番、卯月健お願いしまーす」

//卯月、着ていたTシャツを脱ぎ捨てる

卯月「ん……なんスかあ？ もしかして、今オレの腹筋にドキッとしませんでした？

いーんですよー？ 素直になっちゃっても。

ホントはオレが一番でちよつと喜んじゃってるでしょ？ 顔も身体もイケてるオレでっ！」

辰川「コラー！ 喧嘩売ってんのか卯月ー！」

馬場「そーだそーだー。腹筋自慢の辰川が黙ってねーぞー！（笑）」

卯月「うっ……うっさいっす。彼女に言ってるんだから、外野は黙っててくださいってー

先生も……外野は気になるだろうけど、オレに集中して」

//ヒロイン「ねえ……もうやめましょう？ これ以上はもう冗談じゃ済まされないのよ？」

卯月「ん？ 今さら冗談とか言いませんってえ。マジです、マジ。

（耳元に寄って）今からアンタの中にオレのチンポ入れちゃいます」

//卯月、ヒロインを抱えて床のマットへと押し倒す

卯月「んっ、と……！ マットと……汚ねータオルしかないけど、やるだけなら十分でしょ。

前戯とかゆっくりしてる「ママもないんで、さつきみたいにツバ付けて入れちゃいますねー。

んっ、んあ……」

〓卯月、勃起した陰茎に自分のツバを塗る

〓ヒロイン、いざとなると怖くなり、腰を引いてしまう

卯月「……腰引いてもムダムダあ……！ 逃しませんって……。」

大丈夫……オレ慣れてるし？ 絶対気持ちよくなっちゃいますからあ……」

〓挿入

卯月「っ、ん……！ あ……っ……んっ……く……。」

ハハ……ほら、ぬるって……すぐ入ったあ……！

さつき触ってあげたの、よかったでしょ？

カラカラのトコに突っ込むんじや、オレもアンタもよくないし……！

はあ……ナカあつつい……。

もしかしてさつき手コキしてたときからちよつと興奮してました？」

〓ヒロイン「……！ するわけない……！」

卯月「えーそうですかー？ ハハ……んっ……っ……ああ……。」

カレシのとどつちが大きいかなーとか考えちゃいません？（笑）

オレのは……んっ……カレシのより、イイでしょ？

〓ヒロイン「そんなわけ……！」

卯月「アハ……そうですかー？ やっぱ入れ慣れたチンポのほうがイイカンジ？

でもすぐに中からトロトロにしてあげますから、ねえっ……？（腰を突き入れる）」

卯月「はあっ……はあっ……はあっ……はあっ……っ……く……。」

——ははっ、なんですか、目え閉じて……。もしかして早く終わればいいと思ってます？

オレがすぐ終わったとしても……オレの後ろに何人並んでるか、知ってるでしょ……？

はあ……はあ……っ……あ……。ちよつとは楽しんでくださいよ……

少なくとも、アンタに助けを求めたマネージャーたちは

もつとオレのチンポで悦んでくれてましたけど……？ くっ、ははははー！

〓ヒロイン「……っ……っ……！」

卯月「あっ……もしかして第一泳者なのにアンタにキスもしないで、

「こうやってアナだけ使ってんの怒ってますー？」

オンナってえ……そーゆーのマジで面倒ですよね……はあっ、はあっ……はあ……。

ほら……またおっぱい触ってあげますから、ちょっとはノってくださいよ……！」

//ヒロインのシャツの中に手を入れて、両手でヒロインの胸を揉みしだく

卯月「あつは……やーらか……！　乳首が感じるんですたっけー？　っ……はあ……

グリグリってイジられんの、好き？　はあ、はあ……っ、ぐっ！」

//ヒロイン「やだあ……」

卯月「やだじゃないですよね……乳首摘んだら、ナカきゅって締まりましたけど？」

やっぱマン「は正直ですよねえ……ほら、ほら……！　ほらあ……！」

//ヒロイン「んっ、ああ……！」

//周囲が静かに

卯月「はは……やーっと甘い声出してくれた……♪　やっぱそーこなくっちゃ……

耐えてるアンタを犯してるだけじゃ、オレがタチの悪い強姦魔みたいですよんねえ？

ほら……わかります？　さっきと空気が変わったの……。

先生の感してる声で、ギャラリーもアンタから目が離せなくなってる……！」

//ヒロイン「……………」

卯月「さっきまでは雑談して、オレたちのことなんか気にしてませんーて顔してたのに……。

アンタのエロい声で……チンポギンギンで聞き耳立ててんの……ヤバいでしょ。

ほら……もっと聞かせてやりなよ、アンタのイイ声……♪」

卯月「んっ、はあっ、はあっ、はあ……っ……はあ、はあ……はあ……んっ……！

んん、んっ……くっ……ぐっ……！　あー……はあっ、はあっ……はあ……

はあ……はあ……そうそう、その声、その顔……いーじゃん、たまんない……！

唇噛んでガマンしてるのもいーけどお……やっぱり感じる顔が一番……！」

//ヒロイン「いゃ……いゃっ……いゃ……！」

卯月『いゃ』『いゃなぐっ』『ぐっ』『ぐっ……ハハッ……！

カレシのチンポよりイイって……認めちゃいになってえ……！

んんっ……はあ……はあ……はあ……っ……んっ……はあっ……はあ……はあ……

はあ……あーヤッバ（笑）……オレ、そろそろ……！

はあっ、はあっ……ねえ先生、今日ってヤバイ日……？」

／＼ヒロイン「えっ……！？」

卯月「危険日かって訊いてんの！ はあっ、はあっ……はあ……っ……んっ……くう……！

イイのなら、イっちゃうよ……っ？

中出し一発目え……アンタん中に、ドクドク出しちゃうよ……！」

／＼ヒロイン「えっ、ちょっと、待って……！」

卯月「はあっ、はあ、はあ……はあ……っ、ああ……！

はは、もう無理、時間切れ……！

いくよ……出るっ……んっ、ぐー！ はあはあっ……んっ、んんっ……！」

／＼射精

卯月「はあっ……はあ、はあ……。

良かったよ、先生。ちゅっ。

いつもはもっともっただけど……先生のマン」良すぎいゝゝ

——ん？ なに青ざめた顔して……

あ。中出しはハジメテだったとか？ 彼氏とシたことない？（笑）」

／＼ヒロイン、怒って卯月を押し返す

卯月「ちょ……！ 大丈夫だって……！

こー見えて病気はもってないし、避妊だっとうせ——」

鳳「卯月がスミマセン！

あの、緊急避妊用のピルなら用意してありますから、後で飲んでください」

辰川「一発目で中出しとか……卯月、お前欲張りすぎ」

馬場「オレ、お前の出したて精子かき混ぜんのやだから……。ちゃんとナカ掻き出しとけよ」

卯月「わかってますってえ……。しっつれい……んっ……！」

／＼卯月、膣内に指を入れて精液を掻き出す

卯月「あーほら……。予告通り、ちゃんとトロットロにできたでしょ？

ナカ、すっげえイイ感じ……。

(出てきた精液を見て) うわ……マンコから精液いっぱい出てきた……。

中出し結構良かったでしょ？ あっつい精液でナカいっぱいにされてさあ……。

なんだったり、いつでもオレがたっぷりと――」

馬場「卯月――(卯月の耳を引っ張る)」

卯月「いでえっ！？！？ ちよつと、馬場先輩……！ 暴力禁止……！！」

馬場「なっげーんだよ、お前。終わったあとまでモタモタしてんじゃねーよ。

後ろがつかえてんの！」

卯月「馬場先輩が待ちきれないだけじゃないですかー。

一発先に出したくせに、先輩こそ余裕なさすぎ！

それにーオレは先輩が楽しめるように準備しといてあげたんですよ？」

馬場「はあっ？」

卯月「先生だって、さっき見た時ちよつとぎよつとしたでしょー？

馬場先輩、背はちっこいけど、アッチはデカいから。

入れても痛くないくらいにはほぐしてあげたつもりですけどー……

あー心配。やっぱりもう一発くらい普通サイズのオレで慣らしときます？」

馬場「ぐっ……！ 余計なこと言ってるじゃねーよ！ お前はもーどっか行け。シッ、シッ！」

馬場「先生……」

〃馬場、ズボンと下着を一緒に下ろす

馬場「(モノを見せつけながら)」レ……無理ぞ？」

〃ヒロイン「……………」

馬場「あはっ……なに、それともデカいの好き？」

〃ヒロイン「そんなわけないでしょ……！！」

馬場「じょーだんですってー。でも痛くする趣味ねーから、無理ぞうだったら言うてくださいねー」

〃挿入

馬場「っ……ん、くう……！！ だいじょぶ？ 平気？

もつと……脚開いて……。そう、うん……。

はあっ……あ……んっ……！ はあ……入った……」

//ヒロイン、キツさをこらえる

馬場「そんな顔もすんだ、先生。……っ、めちゃくちゃエロ……」

//ヒロイン「え……？」

馬場「せっかく可愛いのに結構キビシーって評判じゃないっすか、先生って。

先生の授業選択した奴ら、予想と違っってボヤいてたし(笑)

でも、やっぱりエッチの時は女の子っって顔するんスね。

ねー、チンポで突かれたら……もつとヤバイ？」

馬場「んっ……はあっ……はあっ……はあ……うあ……キッツ……はあ……はあ……はあ……はあ……」

はは、でも……卯月の言っってたとおり、ナカ結構柔らかくなってる……！

アイツのおかげだっって思ったら癪だけど……

めっちゃイイ……っ……はあっ……はあ……はあ……はあ……！

んっ……はあ……ナカぐつちゅぐちゅなの……アイツの精子？ それとも先生の汁？」

//ヒロイン「……っ……」

馬場「ははっ……犯されて感じるとか、ヤバいって(笑)

あ……顔、隠さないでよ！ なあ、どうされんのが好き？

デカいのでズボズボされんのキライ？」

//ヒロイン、羞恥に顔を背ける

馬場「いーじゃん？ 恥ずかしがらなくなっって。

ここにいる奴ら、みんな先生とやりたくってウズウズしてんだからー。

同じ穴のコアラ……じゃなくっってえ……なんだっけ、」ジワっ。

//ヒロイン、思わず呆れる

馬場「はあっ……はあっ……はは、やっぱりカワイー顔してる……！

——キス、しよっ？

んっ、んふ……っ、ちゅっ、んじゅっ……んん、ふ……ああ……！

もつと……は、んっ……はあ、はあ……っ。ちゅっ……ちゅっ……！

はは、先生ちゅーうまいね……めっちゃ気持ちいいじゃん……

もつと舌出して……っはあ、べろべろっして……っっ、はあ……
んっ、じゅる、じゅる……っ、ん、むう……ふ……ちゅっ、ちゅく……
はあっ、はあっ……あーヤバ……。

皆に見られてっから、あんま早くいきたくないんだけど……もー無理……！
はあ……はあ……またいきそっつ……！ んっ……はあ……はあ……！

いっていい？ 今度はっ……精子びゅーびゅー中に出していいっっ」

//ヒロイン「……っ」

馬場「キスしながら、イかせてっ……！

んっ……ん……はあっ、はあっ……ちゅっ、ん、むう……

うっ、い、いくっ……んっ、ちゅ……んん……！」

//射精

馬場「っ、あ……！ はあっ……はあっ……はあ……！

あーやつばい……2回めなのにめっちゃ出た……。

——んっ……はあ……サンキュ、先生……♪」

馬場「あ、マン」拭くからちよつとまって……んっ……っど。おっけー。

次は誰だっけー？ えーと、卯月、オレ——」

巴岡「イヤホンを外しながら）……あ、終わりました？ 次オレっス」

馬場「巴岡か。はは、ちゃんとして優しくやれよー？」

巴岡「凶器の持ち主に言われたくないっス。さっさと代わってくださいよ」

馬場「ぐっ……！」

巴岡「バカらし……。楽しむとか優しくとか、訳わかんねーし」

//ヒロイン「っ？」

巴岡「だって……ただの性処理でしょ？

ホントは腰振るのも面倒だし手コキで良かったんだけど……

さっさと出して終わりますから、協力してください先生」

//挿入

巴岡「っ……あ……！　ほんとだ……ナカめるめる……ん、はあ……—動きますよ」

巴岡「っ……はあっ……はあっ……っはあ……はあ……はあ……んっ……！

んん……はあ……はあ……はあ……っ……く……はあ……はあ……はあ……」

//ヒロイン「……………」

巴岡「ん？　なに……。

もつと……なんか触ったりしたほうがイイっスか？」

//ヒロイン「そうじゃないけど……」

巴岡「……………。アンタだつて……早く終わったほうがいいでしょ、こんなバカらしいこと……」

//ヒロイン「えっ？」

巴岡「フツッ断るでしょ、男子部員の性処理にマンコ使わせるとか……。

脅されたからつて……そんなのいくらでも逃げられたのに……

オトナのくせに、バカなんですか？」

//ヒロイン「……………。でも……祐二が、犬飼くんが……」

巴岡「ハハッ、あんなヘタレ部長、ほっとけばいいじゃないですか……

卯月先輩をつけあがらせて、自業自得でしょっ？」

//ヒロイン「君だつて……」

巴岡「え、オレっスか？　オレは……ただ仕方なくやってるだけ。

不参加でホモだインポだ、ケツペキだつて先輩たちに絡まれんのも面倒だし？

それに……コレに参加するようになってから、タイム良くなったのはホントだし……。

——チッ、まあおしゃべりはこれくらいにしましょ……

アンタだつて早く終わりたいでしょっ？

そろそろイかないと、先輩たちもウルサインで——」

巴岡「はあっ……はあ……はあ……はあっ……っ、くう……！

ああ……はあ……はあ……はあ……うっ……んっ……はあ……はあ……！

はあ……はあ……ああ……もう少し……んっ……はあ、はあっ……。

はあ、はあ……はあ……はあ……はあ……！

うつ、んん……！……！　　つ、く、っあ……！……！

／＼射精

巳岡「はあ……はあ……。ハイ、終了……あざーっす」

巳岡「んっ……。あ、中で出しちゃいましたけど大丈夫ですよね？

あとでちゃんとピル飲んでくださいね」

牛島「巳岡、交代交代」

巳岡「ハイハイ……」

牛島「はじめましてー！　1年牛島、おねしやすー！」

卯月「牛島ー今日もタイム計っててやつからなー（笑）」

馬場「コッチばっか最速タイムキメてんじゃねーぞー！（笑）」

牛島「ぐっ……。きよ、今日は秘策を考えてきたんで大丈夫っす！

馬場「秘策うっ？」

牛島「せ、先生……。四っん這いになってもらってもいいっすか」

／＼牛島、ヒロインを四っん這いにさせて後ろを向かせる

牛島「オレ早漏なんで、今みたくいつもめっちゃからかわれるんですけど……

女の子の顔とかおっぱいとか視界に入らなければ、ちよつとはモツかなと……」

牛島「――ゴクッ……。いきますねっ……」

／＼挿入

牛島「んっ……。あ……。はあっ、はあ……。ああ……。あつたか……。っ……。！

くう……。やっぱオナニーとは全然違っつていうか……

はあ……。オマンコ超きもちい……」

／＼ヒロイン、顔を後ろに向けようと軽く身体をよじる

牛島「っあ！　ダメ、先生は動かないでくださいよ……

うっかり暴発したら、またなんて言われるかあ……。

オレのっ、オレのペースで動きますからあ……！」

牛島「は……はあ……っ……んっ……ああ……すっごい……先生……先生っ……はあっ……！

はあ……はあ……こーならないように朝から一発抜いてきたのに……っ……ああ……！

あーもうっ……限界っ……バツクなのに……

先生のオマン」絡みついて、くるからあっ……！

はあ……はあ……はあ……スミマセン、もう無理っス！ イキます！」

牛島「はあっ、はあっ、んっ、うっっ、くー！

出るっ、出る、はあっ！ んんっ……！ う、あああっ……！」

／＼射精

牛島「は……はあっ……はあ……はあ……。あゝやっぱ無理……んっ、く……！」

牛島「スミマセン、先生……やっぱすげーっちゃんいましたゝ」

馬場「プツ……ハハ、いや……ナイスファイトじゃん？

いつもよりは長くできてたって……！

この間マネージャーで童貞捨てたばっかだもんなー。ま、これからだろ」

卯月「そーそ。早漏改善のためにフォーム変えてくるとか、やるじゃん（笑）拍手拍手」

／＼同適当な拍手

牛島「だっ？ ちょ、ちょっとー！ 拍手とかいいっスからあー！ もう……！」

辰川「さっ……ラストはオレだよねゝ。先生、よろしくー♪

——あ、オレは前向いたままでいーよー。こっちのベンチでやらせてくださいっ♪

オレの上に座って——そうそう、向かい合って」

辰川「はあっ……勃起したまま待ってんのツラかったゝ（笑）

服脱ぐの恥ずかし？ あはっ、いーじゃん……オレが皆から見えないように隠すからー。

やっぱおっぱい見ながらシたいていうか」

／＼ヒロイン、シャツをめぐる

辰川「あーうん……全部脱がないのもかえってエロいかも。その格好やバ……。

あは……もーガマンできないや、入れさせて……！」

／＼挿入

辰川「っあ……！　そーそーゆつくり……んっ、は……！　ああ……根本までズッポリ……♪
そのまま……先生、オレの上で腰揺らしてー？」

辰川「んっ……はあ……！　ん……イイ感じい……♪　すげーエロいじゃん……っ……はあ……。
ずっと……考えてたんだよね……女子と……

こーやって部室のベンチでやりたいなーって……。

まさか先生とできるとは思ってなかったけど……っ……今日はフッキー……♪

はあ……はあ……先生のマンコ……こんななんだ……はあ、はあ……

マネージャーよりも締まりイイよ……んっ……はあ……はあ……

チンコ締め付けてきてんの……わざとじゃないっしょっ？

……っ……はあ……はあ……「」

／＼ヒロイン「ぞ、そんなこと……」

辰川「アハ、自覚ナシ名器……？　スゴ……おっぱいユサユサ揺れてんのも……高得点♪

（胸を驚掴みにしながら）あー……むっちむちで最高……っ……

はあ……はあ……っ……はあ……乳首もすげえ硬くなってるしー？」

／＼ヒロイン、乳首をイジられて喘ぐ

辰川「はあ、はあ……すっげ……めっちゃイイわ……はあ……はあ……オレも腰振っちゃお……♪」

辰川「ほんと……マジでぐちゅぐちゅ絡みついてきてんじゃん……っ……

わかる……？　チンコの先がグリグリってえ……先生のマンコの奥に当たってんのっ……！

チンコでノックするたびに……はあ、はあ……エロい声出ちゃってるんですけど（笑）

んっ……！　「ここ、イイんだあ……？　はあっ、はあっ……んっ……くっ……！

ヤバ、オレってこんな早かったっけ……？　牛島のコト笑えねーかも（笑）

先生、ナカで……チンコギンギンだよ……めちゃくちゃ硬くなってるっ……

はあ……はあ……はあっ……ねえ……っ……？

んっ……く……！　はあ、はあ……おっぱい……

（乳首を口で愛撫）んっ、ちゅっ、ちゅくっ……おっぱいおいじー♪　んっ、んじゅっ……
うあ……エロい声……ちゅっ、ちゅく、ちゅばっ……それ、ヤバいつてえ……！

もつとキツく抱きついて、耳元で聴かせてよ……っ……はあ、はあ……っく、はあ、はあ……！
(顔を胸に埋めながら)っ……イキそ……はあ、はあ……

んっ、ちゅっ、ちゅっ……ちゅく……んんう……ふっ……！

ああ、出るっ……特濃ザーメン出るよっ……！

はあ……はあ……イク、イクイク……っ……んっ、く、ぐっ……！……！……！

〃射精

辰川「ちゅっ……はあっ……！ はあ……はあ……うあ……最高……。

やっぱおっぱい最高だわー……は……」

辰川「はあ……あーあ……マンコドロドロ……。オレの精子だけじゃないよねー何人分？(笑)」

〃ヒロイン、とっさに秘所を隠そうとする

辰川「あー隠さないでよー。拭いてあげるから、コッチ来て」

〃辰川、ヒロインの秘所を傍にあったタオルで拭う

辰川「マンコに力入れて……。あゝ出てきた出てきた(笑)……っ……。

さーて、あとは――」

犬飼「ん！ んんむうー！」

卯月「ん？ なんスかーやっぱ部長もやりなくなっちゃいました？」

〃卯月、犬飼の猿ぐつわを外す

犬飼「んっ、はあっ！ もう……もういいだろうっ？

もう時間だ、これで終わりに……！」

鳳「うん、そうだね。

――卯月、満足しただろ。あんまり遅くなると見回りの先生も来る。

時間内に上がってこないなら、これで終わりにするのが賢明じゃないか」

巳岡「5人で終わりとか、先生ラッキーっスね。いつもならこの倍はいるのに。

今日の基礎練キツかったからな……」

卯月「(壁の時計を見て) えーまだあと10分ありますよね？

それ待ってもいいんじゃないっスか？」

犬飼「卯月、もういいだろ！ 彼女を開放しろ！」

〓ドアをノックする音

卯月「あ。ほーら来た、駆け込みゴール。ご褒美が帰ってたらガツカリですってー」

〓我孫子がドアを開けて入ってくる

我孫子「入るぞー。」

（手に持ったプリントを見ながら）強化選手はコッチに集まってるって聞いたんだが――

（視線を上げて、性処理中だと気づく）あ……！」

卯月「あ、我孫子コーチ」

〓ヒロイン、助けが来たと喜ぶ「こ、コーチ!?」

我孫子「（少し驚いて）アンタ……。」

――んだあ？ やるならちゃんと鍵かけておけって言ったよなあ？」

〓ヒロイン、我孫子の反応に落胆する

卯月「アハハッ、先生……」

もしかして今コーチに『助けてもらえる』とか思っちゃいました〜？（笑）

ザンネン。コレえ、我孫子コーチも公認なんで♪」

我孫子「公認なんかじゃない！ オレは何も知らないからな！」

卯月「ハハッ、そうそう。オレたちがみんないいタイムだせるようになったからあ、

この特訓のことは『見ないふり』してくれてるんですよー」

鳳「卯月、コーチにそういう言い方は……」

我孫子「っ……だからって、鍵もかけないとは不信心だな。約束が違っだろう」

鳳「あ……それはスミマセン、僕のミスです」

我孫子「それに……誰だ、彼女は？ 部外者は巻き込まない約束だろう」

鳳「彼女は……マネジャーたちが連れてきてくれた、代理です。」

彼女たち、今日は用があるとかで〜」

卯月『今日だけ』あの「」達の代わりやってくれてるんです。

……どうですか、コーチも一発♪」

我孫子「なっ……ー?」

鳳「おい、何言い出すんだよ卯月」

卯月「いいじゃないですか。

外部から呼んだコーチがマネージャーに手を出したらヤバそうだけど……

彼女は所詮『部外者』だし?

——オレ知ってるんすよ、コーチ……いつも参加できなくて鬱憤溜まってるでしょ?」

我孫子「……っ、バカを言うな……ー!」

卯月「彼女優しいから、コーチのお世話もしてくれますってえ♪」

犬飼「卯月っ……ー!」

卯月「ほらほらー、据え膳食わぬはっって言うじゃないですか?」

我孫子「くっ……ー!」

〃ロッカー追いつめる

我孫子「本当、だろっうな?」

〃ヒロイン、ビクッ

我孫子「バラすんじゃないぞ……こんなことが公になったら、お互い身の破滅だからな。

立つたまま後ろ向いて……ロッカーに手を着け」

〃我孫子、ズボンを下げて、自分で陰茎をシゴく

我孫子「……っ、ん……。入れるぞ……」

〃挿入

我孫子「んっ……は……んう……ー! ああ……前戯なしでもスナリだな……っ……はあ……。

もうアイツらにハメられた後、かあ……?」

ならオレ一人くらい増えたってどうってことないよなあ……。

とにかく、デカい声出したりするなよ……っ……っ……」

我孫子「はあっ……はあ……はあっ……うっ……く……はあ、はあ……ー!」

水泳部員、じゃないな……この学校の生徒でもないのか……?」

はあ、はあ……ああ……お前、卯月の女かなにかか? ん? 悪い男に捕まったモンだな……

それとも……わざわざ自分からチンポハメられに来たかつ？
そんなに好きか……ハッ……このスキモンがあっ……っっ！

はあっ……はぁ……はぁ……あー……はぁ……はぁ……んん……は……っ……

……」

辰川「あはぁ……コーチババすぎー。

迷ってたくせに、先生相手にガチセックススキメちゃってんじゃん（笑）

「ココの教師って知ったらびっくりするんじゃない？」

馬場「卯月……コーチ焚き付けてどうするんだよ。何企んでるんだ？」

卯月「もちろん、こーでしょ……♪」

〃スマホで撮影

馬場「お、おい……！ 写真なんて、お前……！」

卯月「ハハ、大丈夫ですよーコーチの背中と、彼女の脚しか写ってませんから。

フッフッフ、これで毎週末ラーメンがタダに！ コーチにゴチです♪」

辰川「えー？ 毎週末じゃなくって、毎日でいーじゃん！ 毎日ラーメン♪ 毎日ラーメン♪」

卯月「先輩……人間追い詰められるとコワイですよ？」

「コーチだつて大金持ちじゃないんだし、週1くらいがイイトコでしょ」

馬場「わりいやっ……」

我孫子「はあっ……はあっ……はぁ……ナカは……さすがにマズイか……？」

んっ、はぁ、はぁ……ケツにかけてやるから……もっと突き出せ……！

はぁ、はぁ、はぁ……んっ……くー……！ う、はあっ……！ んっ……！

〃射精

我孫子「はー……はー……たまんねえな……はー……」

我孫子「んっ……はぁ……。

（カンタンに服を着て整える）……はぁ、オツカレ」

卯月「あつれーもう帰っちゃうんですかー？ 強化選手に用があつたんじゃ？」

我孫子「うるさい、また明日集合かけて話す。」

（全員に向けて）お前らもあんまり遅くまでやってんじゃないぞ。

体力有り余ってるって言うんなら、強化選手でも容赦はしないからな。

……特に卯月、覚えておけよ」

／我孫子 退室

卯月「……覚えておくのはどつちかねー」

辰川「はゝゝ腹減つた。そろそろ誰も来ないなら帰るー？」

馬場「つたく。2年は卯月だけ、1年は巳岡と牛島だけなんてたるんでるよなあ……。」

犬飼、1ゝ2年のメニュー見直したほうがいいかもな」

犬飼「あ、ああ……考えておく……」

鳳「ふうつ……。さ、そうと決まれば、モタモタしないでさっさと帰ろう。」

強化選手はここで解散。まだプールに残ってる部員たちには僕から伝えに行く。

1年はマットの片付け、換気と消臭を頼む」

／窓を開け、ドアも開ける

卯月「あゝあ、楽しい特訓の時間も終了かー。」

先生、また来てくださいよーオレたちいつでも待ってますんで（笑）」

犬飼「卯月……！」

卯月「部長もー引退前にイイモン見れてよかったですねー♪」

先生のこんなエロい格好見れたのも、全部オレのおかげ。感謝してくださいねー♪」

犬飼「黙れっ……！ こんなこと許されないからな、覚えてろよ……！」

卯月「アハハッ……ほーんと、口だけは立派ですよねー」

鳳「あ、あゝゝ犬飼？ は、早く帰ろう？」

じゃないと……じゃないとちよつとマズいかもしれない……！」

／ガチャッとドアを開けて後輩たちがガヤガヤ入ってくる

鯨井「は〜部長、基礎練ハードすぎですよ!」

狐坂「でもギリギリ時間内に終わったし、ご褒美タイムもらえますよね〜?」

亀山「そりゃそうでしょ、一週間オナ禁してきたんだし〜!」

波戸「あのー今日マネージャーたちいないって聞いたんですけど、マジっすか?」

狐坂「(ヒロインの姿を見つけて) え、うそ、先生〜?」

卯月「あーあ(笑) 残念でしたねー先輩……♪」

先生っ……イク時……この脚にぶっかけてイイっすか……？

だってこんな……破れたストッキングとか、たまんねー……！

こんなん、大量に出すしかないでしょ……はあ、はあ……ハハ……

はあ、はあ、はあ……太ももにチンポ擦り付けて……ぶっかけてイイっすかあっ……？」

//ヒロイン、いやいやと首を振る

狐坂「あはは、イヤがられてもやっちゃうんですけどー(笑)

ぶっかけてえ……ザーメンでドロツドロに汚れたところ……見せてくださいよう……！

はあっ……はあっ……はあ、はあ……はあ……

あーヤバい、ヤバいっ……はあっ、はあっ……はあ……っ……んんっ(引き抜く)

(太ももに陰茎を擦り付ける)んんっ、んん、うっ、イクっ、あ、はああっ……！」

//射精

狐坂「はあ……はあ……はあ……あー♪ 脚がザーメンでドロツドロ……。

ふう……先生、サイコーでしたっ……！ また相手してください(笑)」

亀山「お前あいかわらず、図々しいな。待つてんだから、さっさと代わってー交代！

センサー、次オレっ……」

//挿入

亀山「んっ……ああ……！ はあ……さすがにナカ濡れ濡れじゃんっ？

ちよつとユルいけど……熱くてイイ感じ……。

脚びつたり閉じて……マンコぎゅっ……っしてろよっ……っ？」

亀山「んっ、はあ、はあ……！

はあ、はあ……こんな……レイプみたいにされてんのに……感じてんだ？

ハハ……せんせー、DMだよなあ？ ヘンタイじゃん？

ああ……はあ……はあ……はあ……んっ……！

オレ、一応彼女いるんだけどー……

はあ、はあ……なかなかやらせてくれなくってえ……

はあ、はあ……はあ……キスだけで満足できるかったっの……！

はあっ……はあ……こーやって『処理』しねーと、オレマジでやべーの……
チンポすぐギンギンになってえ……勉強も部活も……集中できねーじゃんっ……？
はあ……はあ……っ、んっ……はあ、はあ、うう……っ……はあ……はあ……
（両手をのびして胸を揉みだく）ああ……胸触っても感じるんだあー？
はあ……はあ……胸揉みながら……ズコズコ突くの……イイのかよ？ あ？
はあ……はあ……はあ……んっ……はあ……はあ……はあ……はあ……
子宮に出してやるからあ……喜べよっ……？」

亀山「んあっ！ はあ、はあ……はあっ……はあ……はあ……！
はあっ、はあ……っ……うっ……くう……はあ、はあ……ああ……！
出すぞ……マンコの奥にっ……全部……はあっ、はあ、ああ……！
んっ、ふうっ……おらあ……っ……！」

／＼射精

亀山「ああ……はあ……はあ……は……は……。ナマ中出しヤバ……。
やっぱこれ味わっちゃったらフツーのセックスじゃ物足りなくなるよなー
——んっ……！ ほらー精子こぼさないように気をつけてくださいよー？（笑）」

波戸「終わったかー？ 次、お願いしまっす」

／＼挿入

波戸「んっ……はあ……っ、ああ……んっ……！

先生……っ……いきますっ……！」

波戸「はあっ……はあっ……はあ……んっ……はあ、はあ……

どうですか……オレの……チンコ……

はあ、はあ……っ……セックスなら……

強化選手の先輩たちにも負けなと思うんですけど……

気持ちイイですかあ？ はあ……はあ……はあ……はあ……

ねえ……先生のイイとこ……当たってるでしょっ……？ んっ……？

はあ……はあ……うっ……んっ……はあ……はあ……ああ……はあ……

ねえ……？ ボーツとしてないで応えてくださいよ……

はあっ……はあ……はあ………

辰川「なーんか……だいが疲れちゃってない？」

卯月「ですねー。まああれだけ相手させられたら当然ってカンジですけど」

馬場「……ドアの外、まだ4人くらいいるんだろ？ 順番待ち」

辰川「普段3人がかりでやってることをひとりでやろうってんだもん、そりゃそっなるよなあ。

どーするよ、待つてるヤツらには事情話しておしまいにするー？」

馬場「そっだな、あんまり遅くなっても面倒そっだし」

卯月「えー先輩……！ 自分らが終わったからってそりゃヒドイですって」

辰川「あー？ それじゃどーすんだよ」

卯月「カンタンな話ですよー。ひとりひとり相手してもらっくんじゃなくって、

一回で4人、相手にしてもらえばいいじゃないっすか……」

波戸「はあっ、はあっ……はあ……うっ……くっ……！

ああっ、イきます、先生っ、イクイクっ……イっ……！ あっ、んんっ……！

〓射精

波戸「ああ……はあ……はあ……はあ……。すっ……良かった……はあ……」

卯月「はーい、じゃあどいてどいて。うしろっつかえてんだから」

波戸「え、ちょっと……ー？」

卯月「先生、手え貸して……」

〓ヒロイン疲労困憊のなか、手を差し出す

卯月「そっそっ、いい子♪ んじゃ右手は2年猪口くんのチンポ握って、左手は1年猿渡くん。

そのまま2年虎松の上にまたがってえ……」

〓挿入

虎松「うっ……ああ……スゲエ……」

オレのそんなカンタンに……っ……はああ……!」

卯月「そうそう、んで口開けて――」

はい、あーん♪ オレのチンポくわえましようねー」

〓ヒロイン、言われるがままに4人の相手に

卯月「んっ……ああ……そうそう、いーですよー。齒当たらないように気をつけてくださいね?」

辰川「こおらっ! 何となくさに紛れてしゃぶらせてんだよっ!」

馬場「おま……反則だろ、それは!」

卯月「へっへへー♪ いーじゃないですか、口空いてたんだしー」

辰川「空いてるわけあるか! 有未があぶれてるだろ、有未が! お前が横取りするからー!」

卯月「有未ー? ああ、後ろから先生の胸でも揉ませてもらうって、自分でシ〇ったらー?

なあ、ギリギリで〓褒美にありつけた有未くん?」

有未「は、はい……先輩……」

馬場「じゃなくって! お前一回終わってるだろ!」

卯月「待ってる間にもう一回やりたくなっちゃったんですよー(笑)

ほら、これで終わりですから……

ちゃんと両手握ってし〇いてくださいね」

〓ヒロイン、両手を動かし始める

猪口「っ、なんでお前ばかり……」

猿渡「んっ……はあ……はあ……そうですよ、卯月先輩ばかり美味しいポジションー!」

卯月「強化選手が優遇されんのは当たり前だろー?

手〇キが不満ならもっとタイム縮めてこいって(笑)」

猪口「くっ……! 今にみてろよー! はあ……はあっ……んっ……ああ……」

卯月「ハハッ、手で十分気持ちよくなってんじゃん。

……アンタも手だけじゃなくって、腰も動かさせてえ……!」

〓ヒロイン、腰を前後に振り始める

虎松「んっ……はあ……はあ……っー！ ああ……イイっ……はあ……はあ……」

卯月「そう……上出来……♪ 先生、今自分がどんな格好してるかわかってます？

チンポ4本相手にして……エロすぎでしょ……っ……はあ……あ、5本だっけ。

ハハ、そんなに睨まないでくださいよー。

いいじゃないですか、そろそろ限界ってカンジだったし。

オレは良かれと思ってやったんだけどなあ……ハハハッ」

有未「はあっ……はあ……ああ、先生っ……おっぱい柔らかいっ……！

はあ、はあ……んん……っ……

こんなに滅茶苦茶にされてるのに……乳首、立ってる……はあ、はあ……ああ……」

猪口「っ……こつちももつと……カリントコ……グリグリってえ……

——んんっ！ そ、そう……イイ……

はあ……はあ……っ……あ……はあ……はあ……はあ……っっー！」

猿渡「はあっ、はあ……先生の手」キやばいっス（笑）

すごいですね……こんな……腰振りながら……うっ……ああ……

マジで……先生のくせにエロすぎでしょっ……はあっ、はあ、はあ！

生徒のチンポ両手に握って……ヤバ（笑）」

虎松「先生……はあ、はあ……オレもっ……！

マンコ、気持ちよすぎて……はあっ、はあ……すべ、出ぞっ……っ……ああ……！

下から……下からガンガンいっちゃっていいですかっ？

——んっ、はあっ、はあっ、くうっ……んんっ……！」

〃虎松、騎乗位で下から激しく突き上げる

卯月「っと！ 激しすぎだってえ……振り落とされるだろうが、バカ……！

——仕方ないな、こつちもそろそろ……

イラマで奥までいきますよー？ チンポ、噛まないよーに、ね……っっ」

〃卯月、ヒロインの頭を持って軽くイラマチオ

卯月「っあ……ハハ、上手じゃないですか……ちゃんと口すぼめて……健気だなあ（笑）

っ……はあ、はあ……は……んん……オレも出ぞっ……

「このまま……口の中に出しちゃいますから、飲んでくださいよ……」

ふ、はあ、はあ……え、無理……？ ハハ、大丈夫ですってえ……

喉の奥に出して……っ……味わう前にドブドブ流し込んであげますから、ねえ……？

ほら……ほら……っ……はあ、はあ……っ……イキますよ……

——んっ、っ、あ……は………！ うっ……くっ………！——」

／＼卯月、射精

卯月「んっ……っあ……はあ……。ハイ、ゴックン……」

っ、ハハ、むせちゃった……さすがに全く味わわないで……っつのは無理ですよねえ（笑）

虎松「はあっ、はあ……！ オレも、もっっ……！ はあ、はあ、はあっ、ああ……

っあ、イクイクっ……くうっっ……！ ……っ、んんっ………！——」

／＼虎松、射精

虎松「はあ、はあっ……は……」

有未「僕も……はあっ、はあ、はあ、はあ……！

先輩、先輩っ……！ イっちゃうっ……！ はあ、はあ、ああっ……！ あ、はあっ……！——」

猪口「ヤバ……っ……あーそこ……！ はあ、はあ……うっっ………！——」

猿渡「こつちも……はあ、ああ……ザーメン、顔に出しますよ……

受け止めてください、先生……っ

はあ……はあ……はあ、んっ……くっ……！ ……っあ……っっ………！——」

／＼有未、猪口、猿渡、射精

有未「はあ……はあ……うっ……」

猿渡「うわ……スンマセン、めっちゃ出たし（笑）」

猪口「はあ……はあ……顔ドロドロじゃねーかよ、精子の量ヤバ……（笑）」

虎松「顔……だけじゃなくって、全身な。お前ら飛ばしすぎ（呆れ）」

卯月「ふうっ……スッキリスッキリ」

辰川「スッキリスッキリ☆ ——じゃねーよ！ お前はっか楽しみやがって……」

馬場「そーだぞ、卯月！」

卯月「あれ、まだ足りなかったんですか？

じゃあ一応全員終わりましたし、あとは先輩方に譲りますよー？」

馬場「つつ！ い、いーよオレは……」

卯月「えー？ 遠慮しないでくださいって」

馬場「いや……さすがにこんなザーメンドロドロの女とやる気にならねーって」

辰川「そーだよ、それに部屋の中も精子の匂い充満しててヤバイし。

エロい匂い通り越してるでしょー！ さすがに換気しないとヤバいって」

卯月「……ああ、まあ確かに」（笑い）」

馬場「それより腹減ったんだけど。こっち終わりにしてラーメン食いに行かね？」

辰川「お！ いーね、ラーメンー！」

卯月「（軽く吹き出して）性欲満たされたら今度は食欲とか、マジ先輩ドーブツツスね〜」

辰川「うっせ！ お前がさっきラーメンの話なんかすっからだろー」

／＼卯月、辰川、馬場、身支度を整える

牛島「あ、全員終わりましたー？」

巴岡「ラーメン屋行くんスか？ 姦々軒だったらオレ餃子タダ券持ってますけど」

辰川「マジー！？ それ何人まで！？」

巴岡「えつとー……」

猿渡「あ、そのタダ券って先週配ってたやつ？ それって有効期限いつまでだっけ」

虎松「あー腹減った……」

卯月「あそこって電子マネー使えましたっけ？ オレ今日財布忘れて〜」

猪口「金なら貸さねーぞー。オレも小銭しか持ってねーしー」

／＼ワイワイガヤガヤ、犬飼と鳳以外退出

●5章

鳳「ふうっ……やっと終わったな。犬飼、今解いてやるから」

／＼鳳、犬飼の拘束を解く

犬飼「んっ……！　はあ……」

鳳「部屋を見渡して」あーあ……こんなに汚して。

あいつら、ここが部屋だつてこと忘れてそうだな。

犬飼、せめて一年にちゃんと掃除してから帰れって言つたほうが良かったんじゃない？」

犬飼「っ、これ以上引き止められるかよ……」。

やっと気が済んだつて言うんだ、さつさと追い出したほうがいいだろ。

掃除なら全部オレがやる。……でもその前に——」

／＼犬飼、鳳、ヒロインに歩み寄る

犬飼「おねえ……！　大丈夫？　怪我はない？

ごめん、オレがちゃんとしてないから、こんな……」

鳳「犬飼、謝るよりもまずシャワーで身体洗ってあげたほうがいいんじゃない？

——あ、でもここには汚れたタオルしかないか……」。

新しいタオルの予備、倉庫の方にあつたと思うけど……」

犬飼「あ、ああ……そうか。そうだな」

鳳「それにもう時間遅いから、一応教員室に延長届出してきたほうがいいと思う。

掃除が終わる前に見回りが来たら、大変だし」

犬飼「わかった。タオル探して、ついでに届けも出してくる」

鳳「届けは当直の先生に手渡したほうがいいよ。

前に出した出さないで揉めたことあったから」

犬飼「ああ、わかった。……本当にお前はよく気が利くな。オレ一人じゃ全然ダメだ。

お前がいてくれてホント助かった。——じゃあ行ってくる」

／＼犬飼、退室

// 鳳、ドアの方へ歩み寄って鍵をかける

鳳「ふう……。本当に目の前のモノしか見えなくなっちゃうんだよねあ

……つと。鍵忘れないようにしないと(鍵をかける)」

鳳「——ああ……。卯月たちも酷いことするなあ。

こんなにドドドにしちゃって……。

外だけじゃなくて、ナカにもたくさん出されちゃいましたよね」

// ヒロイン「う、うん……」

鳳「外側は新しいタオルで拭くとして……ナカもこのままじゃ気持ち悪いですよね。

あ、そっだ。僕が……僕が精液掻き出してあげましょうか」

// ヒロイン「え？ あ、うん……それは、自分で……」

鳳「自分でできますか？ やだなあ、そんな遠慮しないでください。

ひとりじゃナカまで良く見えないじゃないですか。

それにほら——僕の指のほぅが長いから、

奥までちゃんと届くと思いますよ？(笑)」

// ヒロイン、後ずさろうとするが、鳳に腕を掴まれて覆いかぶさられてしまう

鳳「先生。ゆっくり脚開いて……全部僕に見せてください」

// ヒロイン、恐怖を感じて言うとおりに脚を開く

鳳「ハハ、そう……素直ですね。

抵抗したってムダだって、いやってほどわかってますもんね(笑)」

// ヒロインの秘所を覗き込んで

鳳「ああ……赤くなって、少し腫れてる。

えーつと……何人啜えこんだんでしたっけ……。？

こんなことなら、太ももに正の字でも書いておけばよかったですねえ(笑)」

// ヒロイン「っ？」

鳳「え、知りません？ やった男の人数数えるために、マジックで書いておくってヤツ。

結構、AVとかじゃお約束ネタだと思うけど……。

先生、僕『たぐくさんの男を相手にする女の子』ってシチュエーション、

大好きなんですよ。

あいつらに囲まれて、精子がっかけられてドロドロになっちゃうところも
本当はもつと近くの特等席で見たかったなあ（笑）

『空気』になつて部屋の隅で先生のこと見てるの、もどかしかったです」

//ヒロイン、後ずさうとする

鳳「あ、ちよつと……！ 逃げないでくださいよ。ナカ……キレイにしてほしいですよ？」

//鳳、ヒロインの膣内に指を入れる

鳳「んっ……は……！ ハハッ、散々チンポ突っ込まれたのに……

僕の指くらいでそんなに驚かないでください？

っ……ああ……ホント……ヌルヌルですねえ……。ほら……っ……ナカで指広げたら……

間から精液がこぼれ落ちてきた……。「レは誰のかなあ……ねえ？」

鳳「ん……？ ふふ、なあに……太もも震えてるよ？ ん？

これ……？ もしかして、僕の指でオマン」掻き混ぜられて感じちゃってます？

っ……はあ……なんだよそれ……

やっぱり先生ってアイツらが言つてたみたいに淫乱なんじゃないですか？

——ね、じゃあこは……っ？」

//ヒロイン、びくんと身体を震わせる

鳳「ふっ、ふふ！ Gスポット見つけた。

いいよ……っ……ん……このまま擦つてあげるからあ……

精液ダラダラ垂れ流しながら、感じちゃいなよ……っ……っ……！」

鳳「……っ……はあ……僕の腕にしがみついちやつて……。

先生、自分が何されてるかわかってます？

カレシでもなくて、助けてくれる犬飼でもなくて……

あなたの痴態にずーっと興奮してた僕なんかに抱きついて……。

いいね……すっごくいいよ……っ。

っあ……あーほら……ナカ、ヒクヒクしてきたよー？

そろそろイキそうなんじゃないですか？

突っ込まれるだけ突っ込まれて……ん……ずーっとオアズケだったもんねえ？」

//ヒロイン「や……イきたくなんかない……っ……」

鳳「ハハッ、イきたくないじゃなくって……イクんだよ……！」

僕の指で……っ……はあ……んっ……

ほら、イッちゃえよ……ほら、ほらあ……っ……っ……っ……！」

//ヒロイン、絶頂

鳳「……っ、はあ……はあ……。ふふ、イっちゃいましたね？」

意外と感じやすいなあ……さっきはガマンしてたんですか？

あ、それとも実は何回かイっちゃってたとか？（笑）」

//鳳、下着ごとパンツを下ろす

鳳「指だけなんてあなたが満足できないよね……」

鳳「ほら……見て。僕のが先生の入り口にぴったり当たってる……。」

ゆっくり入れますからあ……チンポ啜え込むところ、自分でよく見ててくださいね……？」

//挿入

鳳「んっ……！ あ、ああ……っ……！ はあ……んっ……！

ハハ……全部、入ったあ……んっ……！

そう邪険にしないでくださいよ……最後まで楽しんでください、先生……♪」

鳳「はあっ……はあ……はあ……はあ……っ……ああ……んん……っ……！

ねえ……この、カリッて……

他の男の出した精液を掻き出すためにあるんだって……知ってました？

ハハッ、本当ですよ？ そう考えると……はあ、はあ……すっごくエッチですよ……。

僕のチンポでナカ擦られて……さっき出されたばかりの精液掻き出されて……

それで……そんな声で鳴いちゃうんですね……？

はあ……はあ……んっ……ああ……はあ、はあ……はあ……はあ……

全然知らなかった……あなたがこんなにいやらしかったなんて……はあ、はあ……」

//ヒロイン「私だって、あなたがこんな人間だって知らなかった……！」

鳳「ハハ……それじゃお互い様ってことかな……。」

卯月みたいなヤツには嫌われますけど……先生ウケはいいんですよー

でも別に、自分で『僕は人畜無害な男です』って喧伝したわけじゃないですから(笑)

あ……そういえば、避妊用のピル……まだ渡してませんでしたね」

// 鳳、ピストンをやめてポケットからピルのシートを取り出す

鳳「ん……っ……」

(薬をシートから出しながら) ほう……コレ、アフターピル。ほしい?」

// ヒロイン、頷く

鳳「あ……ん(薬を自分の口に入れて)……あ。間違って僕の口に入っちゃった(笑)

——飲み込まないうちに、迎えに来てくださいよ」

// ヒロイン、躊躇する

鳳「どーしたんですかー? 薬が欲しいんでしょう?」

ノロノロしていると、僕の口の中で溶けちゃう(笑)

(舌を出して薬を見せて) ほう……「」ですよ、」。

——おっとー! そうじゃないですよ。

手じゃなくって口で直接取りに来てください」

// ヒロイン、おずおずとキスをする

鳳「ふふ、そう……それ。ん、ちゅっ……ちゅ……っ……はあ……んっ、んん……。

もっとな舌出して……僕の口の中、探しに来なよ……?

はあ、は……っ……ちゅ、ん、むう……」

鳳「んっ……んん……ふふ、おいしいね……ん、はあ……でも、キスは最高……

っ……はあ……ん、ちゅっ、ちゅく……んっ……はあ……はあ……

先生から僕の舌を欲しがって……こんなに積極的に……

……っ……んっ……ちゅっ、ちゅっ……んむ……

カレシとも……こんなキスしてるんですか? んっ……は……!」

あー……いいね……その顔……傷ついた? ハハ……すっごくいいよ……」

鳳「ほうあっ……あなたも脚絡めて腰振ってっ……?」

っ……はあっ、はあ……はあ……! ただ股開いてるだけじゃ、薬あげないよ。(笑)

はあっ……はあ……はあ……んっ……ほり……もっど……もっどだよ……！

んっ……くう……はあっ……はあ……はあ……ああ……イイよ……っ……はあ、はあ……

ふふ、最高……っ……！ はあっ、はあ……出すよ……出すよ……っ……！……！

はあ、はあ、んっ……くうっ……！……！ うっ、く……んんっ……！……！……！

// 射精

鳳「っあ……はあっ、はあ……！……はあ、はあ……は……」。

……あ。そっだ、忘れ物……んっ、ちゅっ……んん……（キスで薬を飲ませる）

はあっ……。これで大丈夫ですよ、先生」

// ヒロイン「こんな、こと……」

鳳「ハハ、犬飼には言わないでくださいよー？

あ、言っても犬飼は信じないかな？（笑）」

// 鳳、立ち上がって身支度を整える

鳳「ふうっ……それにしても遅いな。僕このあと予備校なんですよねー。

先生、犬飼もそろそろ帰って来ると思うんで、先にシャワー浴びてもらえます？

（かばんを探って）あ、あとこれあとで追加で飲む分のピル。忘れないでくださいねー」

// ヒロイン「……………」

鳳「どのみちその格好では帰れませんよね（笑）

僕先に帰りますんで。あとの始末は犬飼にお任せします。

じゃあさよなら、先生」

// 鳳、退室

●6章

//時間経過

犬飼「おねえ？ おねえー？」

//犬飼、シャワー室へ近づいてくる

犬飼「おねえ、シャワー浴びてるの？」

//ヒロイン「う、うん……」

犬飼「ごめん、遅くなって。

——鳳も帰ったんだな……さっき連絡きてた」

//ヒロイン「うん……」

犬飼「タオルここに置いてくから。シャワー終わったら使って。

オレはあっちで部屋の片付けしてるから、急がないでいいから」

//ヒロイン「ありがとう」

//時間経過

犬飼「おねえ……」

//ヒロイン「……片付け終わった？」

犬飼「うん、全部拭いてきれいにしておいた。——帰ろっか。

あ……ちよつと待って。ん……」

//犬飼に触られそうになったヒロイン、とつさにその手をよけてしまう

犬飼「つ…………！ あ……オレ……襟がめくれてたから直そうと思っただけで……。

ご、ごめん……」

犬飼「つっ……！ おねえっ……！！ そっだよね……怖かったよね……！

もう大丈夫だから、大丈夫……。オレはおねえにあんなことしない。

だからオレのことまで怖がらないで……。ね？

オレ、これからは絶対に卯月たちの好きになんかせせない。

絶対にもうおねえにも近寄らせないから……今度こそ、オレがおねえを守るから……!」

//ヒロイン「……ありがとう。でももう水泳部には近寄らないし、学校もやめるかもしれない」

犬飼「え……ここを辞めるかも、って!？」

そ、そんな……やっと就けた大事な仕事だと言ってただろー？

だ……大丈夫だって……オレがいる、おねえにはオレがいるから……」

//ヒロイン「祐」……？」

犬飼「おねえの全部をわかってるのは、兄貴なんかじゃない。……本当はわかってるでしょ……？」

//ヒロイン、犬飼を突き飛ばす

犬飼「……っっ……なんで……？ オレのこと、またそうやって拒むんだ!？」

//犬飼、ヒロインを壁際に追い詰めて、抵抗するヒロインに強引にキスをする

犬飼「……っ、ちゅっ、ちゅ……ん、ふうっ……ん、ちゅっ……!」

っ……好き、好き……っ……大好き……ちゅっ

ずっと……ちゅっ……子供の頃から、ずーっと……オレはおねえだけだよ……？」

んっ、ふ……ちゅ……んん……んっ……!」

はあ……だから、兄貴と付き合い始めたって聞いて……頭がおかしくなりそうだった……

おねえの隣にいるべきなのはオレなのに、って……!

んっ、ちゅっ……ちゅ、ちゅく……んん、んむっ……!？」

//ヒロイン、犬飼の唇を噛んで抵抗する

犬飼「っ、いつ……たあっ……! ——唇、噛むことないだろ？」

あいつらのキスは受け入れたくせに、オレにはそういう事するわけ?」

//ヒロイン「それは……暴れたらあなたが酷いことされるんじゃないかと思つて……」

犬飼「オレが人質みたいになつてたからってこと?」

ハハッ……。そう、やっぱりおねえはやさしいねえ……。

でもあんまりおとなしくしてるから、

本当は悦んでるんじゃないかって思つちやったよ? (笑)

犬飼「大丈夫、わかってるよ……おねえはそんな女じゃない。

初めて付き合つたのも兄貴だし、兄貴としかしたことなかったもんね。

……昔からそう。アンタは兄貴のことしか眼中になかった……。

オレのことなんて見てくれなかったもんね……」

〃犬飼、ヒロインの服をまさぐり、脱がせる

犬飼「んっ……はあ……ああ、ちゃんときれいになってる……。

さつきは乱暴にされて怖かったね……？

安心してよ……オレが、イヤな記憶は全部上書きしてあげるから……！」

〃ヒロイン「い、いやっ……！ あなたも……！？」

犬飼「え……？ オレをアイツらと一緒にしないでよ（笑）

言つたでしょ、オレは性処理のためなんかじゃない……

おねえのことを愛してるから……愛してるからするんだよ……！

同じなわけない……同じセックスなわけないだろう？

たーつくさん気持ちよくしてあげるから……

今度こそオレのことだけを見て……」

〃犬飼、ヒロインの両手を押さえつけながら、首や耳にキス

犬飼「……っ……んっ、ちゅっ、ちゅ……んん、はああ……。

——あ。ごめん、硬くなったチンポ当たっちゃってるね（笑）

最初から、ずーっと……卯月がおねえを襲いだしてから、ずっとこうなんだ……。」

〃犬飼、ヒロインに服越しに屹立を押し付け、擦り付ける

犬飼「んっ……はあ……！ ほら……わかるでしょ……」コレ……勃ってるの……はあ……。

勃起隠すの大変だったよ……もうパンツの中、ガマン汁でヌルヌルっ……！

おねえが最初にイイ声あげた時……卯月に突っ込まれてあえいだ時、

オレはじめて、触ってないのにイッちゃうかと思ったよ……。

だってさ……あの声……兄貴の部屋から聞こえてくる声と同じなんだもん……！

フツ、気づいてなかった？（笑）

あんたが本当に感じてる時の声……オレにも聞かせてよ、ね……？」

〃犬飼、ヒロインの下着の中に手を入れて秘所を愛撫する

犬飼「——ここも……んっ……ちゃんと洗ってきた？

……っ……ああ……こっちも一緒に触られるのが好きなんだっけ？

(乳首にキス) んっ……ちゅばっ……んっ、ちゅく、ちゅく……

んは……乳首吸われるの……好きなんだ(笑)

声押さえてもダメだって……マン「濡れてきちゃってる……」。

あー……あつつい……おねえの「コ」、こんな風になってるんだね……。

ずーっと想像だけだったらから……やっとなれたって感じ……。

隣の部屋で……兄貴とあんたがセックスする音聞きながら……

悔しいのに、悔しくてたまらないのに手え止まらなくて……っ……はあ……

手が届かないアンタのこと考えてシ「コ」ってたんだよ？ 知ってた？

ホント……今直接おねえに触れてるなんて……興奮しすぎてヤバイ……っ……！

——んっ？ なに……「コ」？

あー「コ」かぁ(笑) 「コ」がいいんだ？ ふふふっ……」

//犬飼、ヒロインのGスポットを探し当てて執拗に愛撫する

犬飼「あー……身体、ビクビクさせちゃって……可愛いなあ、もう……♪

いいんだよ、今はオレしか見てないし……

オレの指に集中してさぁ……感じてよ、ねえ……っ……感じて……

っ……はあ、はあ……んっ……ふ……んっ、んんっ……！

//ヒロイン絶頂、潮吹き

犬飼「フッ……！ すっごいねえ、潮まで吹いて……！

あはは、お漏らししちゃったみたいだ……ほら、こんなに沢山……」

//ヒロイン、フラついてしまい犬飼に抱きとめられる

犬飼「おっと……！ さすがにもう立ってられない……？

いいよ……じゃあそのままそこに寝て……」

//ヒロイン、暴れて逃げようとする

犬飼「っっー！ なんだよ……まだそんな元気あるの？

(ヒロインを押さえ込みながら) 逃さないって……！

逃がすわけないだろ……。今度はオレがイク番……っっー！

／＼犬飼、片手でヒロインを押さえ込みながら下着を下げて秘所に屹立をあてがう

犬飼「ヌルヌルしてる……！ これなら、入れられても痛くないね……？」

／＼挿入

犬飼「んっ……！ ん、んんう……！……っ……はぁ……あぁ……っ……！

すごいよ……すごいよ……っ……おねえのなか、気持ちよすぎ……！

あぁ……本当にセックスしてるう……っ……！……！……！……！……！……！……！

犬飼「はぁっ……はぁ……夢みたいだ……こんな……はぁ、はぁ、はぁ……！

オレのチンポが……アンタの中に……っっ……んっ、あぁ……はぁ、はぁ……

アハ……ナカ震えてるよっ……？ イったばかりだから？ マン「痙攣しちゃってるっ……

はぁ……はぁ……はぁ……っ……んっ……あぁ……

今日は何人に突っ込まれたんだっけ、覚えてる……？ んっ……はぁ……はぁ……

もうこの身体は……兄貴だけのものじゃなくなっちゃったね？ アハッ、ハハハ……！

ずつと……はぁ、はぁ……ずつと思ってたんだ……

アンタが兄貴に夢中なのは……兄貴のことだけしか知らないからだ、って……

他にもいろんな男がいるだろうって……オレ、教えてあげたんだ……はぁ、はぁっ……！

／＼ヒロイン「あ、あなたが……？」

犬飼「んっ？ そっだよ……？ 言っただろ……

『最近やっつとアイツらの扱いがわかってきた』ってえ……！

特にアイツ……卯月は特別わかりやすい（笑）

オレに反発することしか考えてない……幼稚な問題児……！……！

はぁ、はぁ……はぁっ……アイツがおねえに目をつけた時は苛ついたけど……

逆に利用できないかって考えたら……良い駒になってくれた……っ……はぁ、はぁ……

あとは女子マネージャーの相談に乗るふりをしておねえのところに行かせたんだ……。

オレね……部長に指名された時、実力もないのになんでオレがって、訊いたんだ。

先輩は……お前は人を使うのがうまいからって言って……

その時は意味がわからなかったけど……最近やっつと実感したよ（笑）

アイツら……面白いくらい、ちゃんとオレの思い通りに動いてくれる……！

//ヒロイン、顔をこわばらせる

犬飼「そんな顔しないで(笑)」

オレはおねえを解放してあげただけなんだ……はあ、はあ……

兄貴なんか、なにも特別な男じゃない……ただ子供の頃から側にいたってだけ……

ほら、見て……？ もうオレは子供じゃないんだよ？

兄貴よりもずっとアంతの近くに……

誰に犯されたって、おねえはずっとずっときれいだよ……

オレもいつぱい感じさせてあげる

誰よりも……ずっとずっと大事にするからあ……！」

犬飼「——はあっ……はあ……はあ……ほら……さっき指で擦ってあげたところっ……

チンポで沢山擦って……んっ……はあ、はあ、はあっ……ああ……

はあ、はあ……あー……また……またイくの？

そんな締め付けられたら……ギユウギユウって……す……っ……

ああ、オレも……っ……はあっ、はあっ……はあ……！

ダメ、だつてえ……はあ、はあ、はあ……んっ、んんっ……ん、くっ……！」

//射精

犬飼「うあ……ああ……す……。搾り取られる……っ……はあ……はあ……はあ……。

(強引にキス) んっ……んんう……んじゅっ……じゅる……ん、ちゅく……はあ……。

——どう？ 誰が一番……？」

//ヒロイン、顔を背ける

犬飼「ねえ？ 答えてよ……誰のチンポが一番良かったかって訊いてるんだけど……？

——フツ、答えないなら……もっとちゃんとわかってもらわないとね」

//犬飼、再び腰を動かし始める

犬飼「はあっ……はあっ……はあ……あーあ……ナカ……オレの出した精子でいっぱいだ……

聞こえるでしょ？ ぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅって……

はあ、はあ……やうしー音……っ……

兄貴はこんな「」してくれないでしょ……？

はあ、はあ……オレまだまだ全然萎えないよ……

おねえが満足するまですつと腰振って……ナカ、掻き混ぜてあげるねえ……

はあっ、はあ、はあ……んっ……くう……はあ、はあ……んっ……！

奥まで突きまぐって……愛してあげるから……はあっ、はあ……はあ……はあ……

んっ……ちゅっ、ちゅ……んっ……ふう……んんっ……

好き、好きだよ……（耳責め）んっ……ちゅく……

ちゅく、ちゅぱあ……んふう……んちゅっ、ちゅ、ちゅく……じゅる……

アンタも……オレが好きだって言って？ はあ、はあ……

オレが一番だって……オレが欲しいって……腰振って……っ……はあ、はあ、はあっ……」

//ヒロイン、首を振る

犬飼「アハ……そう、そういう強情なところ……昔っから変わらないね（笑）」

好きなんだ……そういうところ全部ひっくるめて……はあ、はあ……

好き……好き……っ……はあ、はあ……ああ……また……！

あー……出る出るっ……はあ、はあ、コッチ向いて……んっ、んんう……ん、ちゅっ……60

はあ、はあ……んんう……ん、ふ……んんっ……ん、むう……っっ……！」

//射精

犬飼「っ……はあ……はあ……。わかる……？」

2発目なのに……精子いっぱい出てるよ……っ……

——ん？ おねえ、泣いてるの？ 涙も全部（ペロツと舐め取って）オレのだ……。

ああ……可愛いなあ……その顔最高に可愛い……涙と涎で汚しただらしない顔……」

//犬飼、ヒロインから体を離す

犬飼「ああ……さっき出したのが床に……。これじゃ掃除してもきりがないね（笑）」

おねえ、ほら……オレのチンポ、舐めてきれいにして」

//ヒロイン、床に座り陰茎を咥えさせられる。

犬飼「んっ……はあ……っ……。そうそう……上手だね……んっ……ああ……。

沢山出たから……全部舐め取って……んっ……

「っ」……というの、お掃除フェラっていうんだっけ？

んっ……………！　ハハ、そんなうまそうに舐められたら、オレ…………っ、は……
また硬くなってきた…………っ……………んん……

そのまま……………そう、啞えて……………奥まで……………っっ……

あ、ああ……………んん……………はあ……………もういいよ、後ろ向いて」

〓ヒロイン、立って後ろを向かされる

犬飼「ん……………そう……………」

犬飼「いくよ……………」

〓挿入

犬飼「はあっ……………あ、ん、ぐっ……………っ……！

あは……………また根本まで入っちゃったね……………！」

犬飼「はあっ、はあっ、はあ……………どう……………？

そろそろ、はあ、はあ、オレのチンポ馴染んできたっ……………？

はあ、はあ、はあ、ハハハ……………いいよ……………オレ焦らないから……………っ……………はあ、はあ……………

何度でも……………何度でも……………ずーっとお……………！

兄貴のことなんかぐっでもよくなるまで……………

おねえがオレのものになってくれるまで……………こっうやって……………はあ、はあ……………

オレが愛してあげるからね……………っ……………はあ、はあ、はあ……………んっ、はあ……………

好きだよ……………好きだ……………はあ、はあ……………っ……………はああ……………

んっ、んんっ………………………………………」

〓おしま